

ボランティア・ニュース 第3号

マンモス展特集号

2005年夏のシベリア・マンモス展

高橋英樹 (博物館研究部)

2005年7月2日から8月27日まで「シベリア・マンモス展」を開催しました。3月15日の企画展示専門委員会における低温研福田先生からの提案以降、展示経費の確保、関連団体からの協力・後援名義の依頼、日本テレビとの合意書の協議などさまざまな課題が降ってきて、第1回の展示準備委員会が開かれたのは5月20日の事でした。それから1ヵ月ちょっとで開会したのだから、今振り返ってもよくできたものだと感心します。しかし準備期間が短かったために、関係

者には多大なご迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。また突然の依頼にも関わらず快く協力して頂いた多くの方々に対して、あらためて感謝申し上げます。展示期間中はボランティアの皆さんがほぼ毎日会場に張りついて下さり、来館者からはかなりの好評でした。今後も年に1回程度は規模の大きな企画展示を開催する予定です。引き続き、ボランティアの会からのご支援を期待しています。

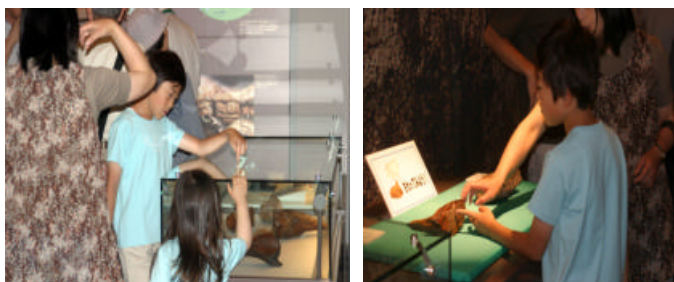
シベリア・マンモス展を終えて

福田 正己 (低温科学研究所)

平成16年のはじめに、日本テレビからおかしな電話が掛かってきた。拙著「極北シベリア」に書かれているノボシビルスク諸島の大リヤホフスキー島に行きたいので、情報が欲しいとのことであった。1993年当時に現地調査を行った際に、多くの困難な問題があり、それを短時間で解決してテレビ局が取材するのは不可能であろうと答えた。それでもめげずに札幌までやって来たので、現地での案内を依頼する人物を紹介してあげた。その後どういう訳か、8月に現地に出かけマンモスの背骨を見つけたとの報告があった。また今回展示された臀部についても、愛知万博での展

示のために借り出す計画を伝えてきた。3月末の万博開幕に併せて臀部も名古屋に到着した。ところがなにかの問題があり、開幕1週間で展示を取りやめてしまった。なんとかこれを一般に公開出来ないかと先方と相談し、かなり急な話にもかかわらず、総合博物館での展示が出来るようになった。

無理な話であったにもかかわらず、博物館各位の熱意とボランティアの皆さんの後押しで7月2日の開幕に間に合わせる事が出来た。開催中には多くの人々が展示会場に来られた。これで一安心してアラスカ調査に出かけた。アラスカ滞在中にも展示についての情報や評判をメールで知ることが出来た。名古屋大学の友人が学会でやって来て、シベリアマンモス展を見た感想を送ってきた。いわく3つの点で愛知万博より良かった。1)入場無料であった。2)いろいろな関連した展示があって分かりやすかった。3)ボランティアの方々が熱心に説明してくれて更に分かりやすかった。一番印象に残ったことは子供たちが熱心に見ていたことだ。シベリア・マンモス展示はきっと一生の思い出として記憶に残されたことだろう。



マンモス展

中野 系 (マンモス展展示責任者)

初めてマンモスの尻を見た時、正直な所、醜悪なものを見せつけられた感じを懐いた。

ガサガサの灰色の皮膚、薄汚れたぼさぼさの毛、露出したかさかさの肛門、加えてケースの中に蠅までまわりついている。

小生、なまじ化石グループに属しているが為、久万田会長からマンモス展示のボランティア責任者を指名されたが、実物を眼前にして気後れせずに入れなかった。

とは言え、今更逃げる訳に行かない。事前に準備する時間的余裕が無く、急遽、先生方の丁寧な指導を受け、マンモスに関する知識の詰め込みに入った。

一方、一日を午前、午後に二分し、各々の展示解説の当番を決め、あたふたと本番に突入した。どうなる事かと、内心心配していたが、全く杞憂に終わった。メンバーそれぞれ、自分の個性を生かし、来館者に上手いこと説明している。“成る程”と感心するような説明を、積極的に自分の説明に取り入れる等工夫をした。当初恥ずかしげに解説していた人も、後半は自信に満ちた解説へと進化した。アンケート等から、来館者のボランティアに対する感謝の気持ちを知り、全員のヤル気に更に拍車がかかった。当然の様に、仲間内の連帯感、責任感が生まれ、誰かが都合悪く



なれば、お互い代役で助け合うようになった。

初日から最終日まで、一日たりとも欠く事無く実施できたのも、このような背景があったからこそと思う。その結果、我々の活動がこの特別展のみならず博物館そのもののPRにも微力ながら貢献できたのではないだろうか。反面、ここでは割愛するがいくつかの反省点や問題点も指摘されている。

将来又、大きな特別展が開催される時、マンモス展での成功と反省を活かし、ボランティア活動が更に発展し、北大総合博物館に一層寄与できたら、幸いだと思う。

そう思いながら最終日展示ケースの前で記念写真をとっていたとき、マンモスのお尻がいつの間にか美麗に見えるようになっていた。...

ボランティア解説員泣き笑い

寺西 辰郎 (ボランティア)

私にとって北大総合博物館のシベリア・マンモス展に携わるまでは、マンモスの知識は情けないほど貧弱なもので、曲がった牙と毛むくじゃらな大きな図体をして、寒冷地を闊歩していたが、なぜか突然絶滅した動物とのイメージしかありませんでした。それ以上にお粗末なのは有名な園山俊二の『はじめ人間ギャートルズ』のマンモスと尋ねられても「知りません」と答えて周囲のものを唾然とさせたほどでした。マンモス展にボランティアとして参加することになったがレクチャーを受けても心細い限りの知識では、博物館側から最初に渡された**誘導員のプレート**が物語るように、期待されない立場のスタートでした。

ここで50日に及び期間中に起きたボランティア解説員の泣き笑いを振り返ってみたいと思います。

にわか展示解説員ですからマンモスの生息年代を

間違えて注意されたり、こちらのレベルを見越して意地悪な質問をする学生さん(特に女性同伴に多い。順路を逆行し傍若無人の態度でマンモスの臀部の前で記念撮影をして風の如く去る若者達、それを他の見学者から「入場料を取らぬからああ云う不心得者が現れるので、学術的な見地から来ているものが迷惑をする」と云われたりしました。なんと云っても極め付きは、お孫さん連れの中高年の方々が子供の質問に答えられぬと居丈高に怒り出す事。それも今回の展示にあまり関係のない事、例えば・・・象の顎孔は何のためとか、人工衛星はなぜ落ちないのかとか、想定外の質問には閉口しました。

又博学少年の多い事に驚かされ、展示パンフや解説の誤りを指摘して自己の存在をアピールする傾向が見受けられたが、こちらから逆に質問すると図鑑信

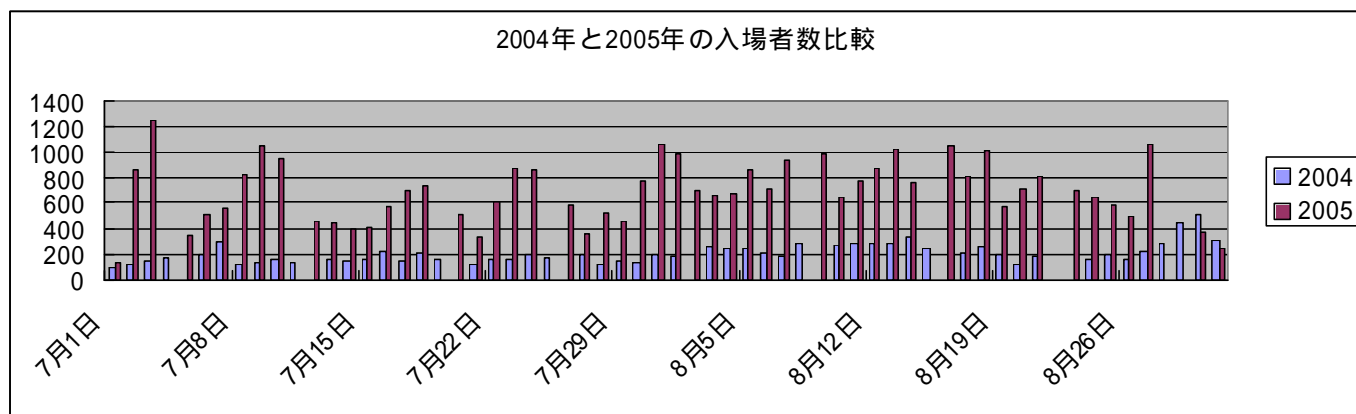
仰に表された底の浅い図鑑 丸出しの理屈を述べるのを無視して解説を続けると再三にわたり邪魔をするので、一計を案じ「この天才少年が今後の解説を行う」と宣告するとすっかり大人しくなり、以後スムーズに進みます。このような少年を相手にされる学校の先生のご苦勞が偲ばれました。

最後に今日、日本では「ありがとう」という感謝の言葉は死語になったと云われて居ますが、私の拙い解

説にも拘わらず、大勢の方から「解説ありがとう」と嬉しい言葉をかけて頂きボランティア冥利に尽きる思い出っぱいの日々でした。

そして、三万人を越す入場者を数えたこと以上に無事故で会期を終了できた事は、何事にも替え難い喜びでした。これは一重に職員のみな様やボランティアのみな様の献身的なご努力の証であり、その一員に加えて頂いたことを厚くお礼申し上げます。

北大総合博物館見学者ついに20万人を超える マンモス展には例年の3.4倍 37,000人が入場



36,730人。これが7月2日から8月27日までの2ヶ月間のマンモス展示期間中の来館者です。昨年7月は4,417人、8月は6,647人 合計11,064人でした。今年7月は17,227人、8月は20,255人 合計37,482人でした。

両年を比べると今年はおよそ3.4倍の来館者増ということになります。

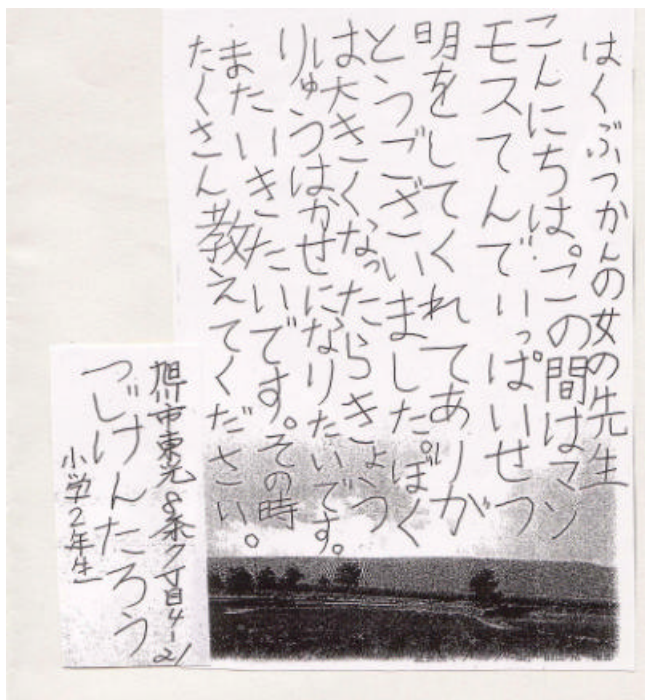
そういう訳でこの8月30日には総合博物館入館者20万人達成ということでくす玉を割り、20万人目の高知から見学に来た小学生のご一家にプレゼントを渡してお祝いしました。

ご協力ありがとうございました

マンモス展中間総括の中で、道内博物館等マンモスを展示している博物館をお知らせしようということになり急遽関係機関に連絡したところ、快くリーフレットを送って頂きました。関係博物館一覧と一緒に展示室に置いたところ、あっという間に無くなりました。ご協力頂いた博物館等の方々に厚くお礼申し上げます。

あなたもボランティアになりませんか

総合博物館では何時でもボランティアを募集しています。博物館に興味のある方、何か役に立ちたいなと思っている方、できることは色々あります。一度博物館に来て見ませんか。(詳しくは総合博物館ホームページをご覧ください。)



- ・マンモスのお尻はすごい。(女子高校生)
- ・とても面白く色々なことがよく分かった。牙にもさわられたり、珍しい博物館だった。(女子小学生)
- ・展示会場は普通見るだけのものが多いのですが、触れるなどの体感できるものもあり良かった(50代男性)
- ・よかった。マンモスのところのおじさんがとても親切で良かった。いなくなんないでほしいです。(男子中学生)

編集後記

- ・マンモス展が事故なく無事終わったことを心より嬉しく思います。
この展示でマンモスの食事内容が調査個体によって大きく異なることが判明しました。その原因が今後判る事を期待します。マンモスに長い毛とパンチパーマの毛があったのは本当に驚きでした。(星野)
- ・このニュースも産声を上げてからやっと3号にたどり着いた。マンモス展で遅れていましたが、又スピードを上げて編集をしましょう。(沼田)
- ・ボランティアに登録したのが6月、7月からはマンモス展、そして9月からニュースの編集委員とめまぐるしい3か月でしたが、(その間に3泊4日の入院あり)退職してから久しぶりの充実した日々を過ごせました。何より愛 地球博に行かなくてもマンモスをじっくり見られたのはとってもラッキーでした。(永山)

博物館アンケートから

- ・無料で見られたのが良い(50代女性))
- ・名古屋から来ました。万博のマンモスは2回見たけれど、このしっぽも大変面白い。牙にさわることが出来るのも良い。アンモナイト展も良かったです。(40代男性)
- ・展示場にスタッフの方がいて、分かりやすく説明してもらうことができたので、良かったです。ありがとうございました。(20代男性)
- ・大きくなったらこの大学に来たいです(女子小学生)
- ・マンモスだけだと思ってきたら、色々展示されていて楽しく学べました(60代女性)
- ・ほんとのマンモスのおしりを見られてよかった。また博物館に来るのがたのしみ。(女子小学生)
- ・マンモスの顔がみたーい。
- ・名古屋では写真が撮れませんでした。写真を自由にとれるのがとても良かった。(20代女性)
- ・新しいものは作れても古いものは作れません。頑張ってください。(50代男性)
- ・シベリア・マンモス展はとっても良かった！！の記載がいっぱい。
- ・マンモスの解説をして下さった人(先生?)の話がとても面白かったです、ありがとうございますという記載もたくさんありました。うれしいですね。
- ・昆虫展もアンモナイト展もとっても良かった、また来たいですという記載も多かったです。

ボランティア・ニュース

編集 発行

北海道大学総合博物館ボランティアの会

発行日：2005年10月

発行所

総合博物館ボランティア控室(N302号)

連絡先

060-0810

札幌市北区北10条西8丁目